

2012 3/13

No.1918

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

—神奈川政経懇話会—



ひな祭りの3日、横須賀市芦名の淡島神社で「流し雛(びな)」が行われ、芦名海岸での神事後、約30体のひな人形を載せた小舟が巫女(みこ)らの乗った船に引かれ湾内を回った。



## contents

<b>視点・点描</b>	3
アイドルと自殺対策月間	
<b>社 会</b>	4
日本人は現状を悲観すべき 公正な個人の日で見極めを	
<b>国 際</b>	6
政治、経済両面でまい進 ミャンマー、国造り急ピッチ	
<b>国 際</b>	8
ごみ収集方式めぐり大論争 米国、効率か競争か	
<b>くらし2012</b>	10
圧迫骨折に新治療法	
<b>政治反射鏡</b>	12
示せるか、政治の復元力 話し合い解散は離れ業	
<b>コラム</b>	13
「いつか来た道」再び 北朝鮮のウラン濃縮停止	
<b>広告珍談</b>	14
～キキメある人と顔と 勉強しなさい	
<b>経済ニュースから</b>	15
神奈川新聞の経済ニュース	

### 事務局だより

#### ◇横浜定例講演会

2012年4月18日（水）

13時30分～15時

ホテルキャメロットジャパン

講師は東京大学大学院教授の  
藤原帰一氏

演題は「東南アジアの現在  
アメリカ・中国・日本の間で」

#### ◇横浜定例講演会

2012年5月14日（月）

13時30分～15時

崎陽軒・本店

講師は政治評論家の森田実氏  
演題は「政局の展望」

# 視点 点描



## アイドルと自殺対策月間

3月は国が定めた自殺対策の強化月間。そのPR活動の先頭に立つイメージキャラクターに、飛ぶ鳥を落とす勢いのアイドルグループが選ばれた。そう、ご存じのAKB48である。

命をめぐる重いテーマ。そこになぜ、トップアイドルグループを絡ませるのか。「違和感」を感じた方も多いのではないか。新聞広告やテレビCM、ポスターを通じ

て自殺防止を呼び掛けている。「命の門番になるのは、みんなです。」と。

内閣府の自殺対策の強化月間をめぐってはまず、月間のキャッチフレーズが物議を醸した。明らかにAKBをもじった「あなたもGKB47宣言！」である。

「GK」は自殺の兆候を気づいて必要な支援へとつなげるゲートキーパー（門番、見守り役）

の略で、「B」はベーシック（基本）の頭文字。とどのつまりは、命を守る門番としての活動を47都道府県に広げ、14年連続で3万人を超える自殺者の数を少しでも減らそうというのが啓発キャンペーンの意図だったようだ。

ゲートキーパーの活動の輪を広げる。その趣旨に異論はないものの、自殺対策に地道に取り組み自死遺族の支援団体などからは、猛反発を受ける。じっくりと腰を据えた活動が求められる自殺対策とアイドルとの取り合わせが、あまりにも不可解だったからだ。

神奈川県と横浜、川崎、相模原の3政令市などで組織する「かながわ自殺対策会議」の場でも、遺族支援に携わってきた有識者委員から、このフレーズに対して「強い違和感」が表明された。

結局、「あなたもGKB47宣言！」は、国会の場でも批判され、野田佳彦首相も「違和感を感じていた」と同調。その結果、「あなたもゲートキーパー宣言！」へと差し替えの憂き目を見る。

この一件で、首相が現場と同じ感覚の持ち主だと知って安どした方も多いはず。ただ、AKB自体は沈むどころかイメージキャラクターに。これをどう受けとめるかだが、中途半端なちゃぶ台返しを見せられて、後味の悪い思いをした人も少なくないはずだ。

幻となったキャッチフレーズは彼女たちの起用を前提に作られた可能性が高い、と筆者はみる。アイドルありきで政策の「筋」が決められていたとしたら、本末転倒だ。国はどこを向いて仕事をしていくのかと言いたい。

（神奈川新聞社  
統合編集局次長 宮本 敏也）

# 勉強しなさい

この広告に載っている銅像を、見おぼえある人もいるのでは……

山へ柴刈りに行っても、片時も

本を離さず、読みふけて歩く少年。学童たちの向学心を養うモデルとして、小学校の正門近くに立てられている、二宮尊徳である。

通称、金次郎。1787（天明

7）年7月、相模国足柄上郡栢山（現在は小田原市）に生まれた。

飢饉がつづき、各地で一揆が起きていた。5歳のとき酒匂川が氾濫、生家の田畑が流出。14歳のとき父

が、翌年母が病没。一家は離散、金次郎は伯父の家に寄食。百姓に勉学は不要という伯父にかくれて、読書の日々。その苦学の姿を写した像である。

20歳、わずかの耕地を買いもどして生家を再興。儉約しては貯金、

少ずつ土地を買い増して、4町歩の地主になった。25歳、小田原藩の家老・

服部家に奉

公。家政の

改革をまかされた。その

の手腕をみ

とめられ、

小田原城主

大久保忠真

から模範篤

農家と、表

彰された。

さらに大久保家の分家の財政建て

直しを命じられ、下野国に赴任。15年

かかりで成果をあげた。ほか

に数藩の旗本家の再建や、関東諸藩から農村復興を依頼された。

55歳の1842（天保13）年、

老中水野忠邦に登用され、幕府の御普請役格になる。2年後、日光神域の復興を命じられ、膨大な計画書を作成。着手しようと奔走した56（安政3）年10月、今市で病

没した。

## 二宮尊徳先生銅像



高三尺三寸  
丹長作

(型録複製)

於第五回内閣勸業博覧會  
賜宮内省御買上光榮  
官徳西園、保徳、配奉、贈品、建築プロンズ

大阪府大阪市東區寺町四丁目二丁目  
慶寺製作所  
電話八八六番

苑はこう書く。「徹底した実践主義で、神・儒・仏の思想をとった報徳教を創め、自ら陰徳・積善・節儉を力行し、殖産を説いた」

この報徳思想は、門人たちによって全国に広められ、大日本報徳社ができた。小田原の栢山には生家と尊徳記念館、小田原城内と今市に二宮神社がある。

広告を見よう。右に各府県など

すでに120余基、有志から寄付

された。現在も制作中である。高

さは3尺3寸（ほぼ1メートル）、

丹長作とある。鑄造師だろう。広

告主は大阪府南區の慶寺製作所。

左に第五回内閣勸業博覧会で、宮

内省にお買い上げていただいた

と。この博覧会は1903（明治

36）年、天王寺周辺で開催された。

そのころ小学生は、二宮尊徳を教

科書で学んでいた。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎在住）

（図）二宮尊徳銅像の新聞広告・

1929（昭和4）年掲載